

新しい美浜の学校づくり通信

Vol.

01

「新しい美浜の学校教育検討委員会」
が始まりました！

現在、美浜町では、新しい学校教育のあり方や、小中一貫教育学校の整備に向けて検討を進めています。その議論の場として「新しい美浜の学校教育検討委員会」を開催し、保護者や地域、学校関係者、有識者などが集まり、美浜町らしい学びや学校のあり方について話し合っています。

本号では、第1回・第2回検討委員会の内容をご報告します。

今後も「新しい美浜の学校づくり通信」として検討の状況を随時お知らせしていきますので、ぜひご覧ください。

★第1回・第2回検討委員会の開催概要

第1回開催概要

〈日時〉 2026年2月24日（火）

19:00～21:00

〈場所〉 美浜町役場 2階会議室

〈出席委員〉 26名

【主な内容】

1. 委嘱状の交付
2. 新しい美浜の学校教育検討委員会について
3. 委員長及び副委員長の選出について
4. 委員自己紹介
5. 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について
6. 小中一教育に関する制度説明について
7. 今後の検討スケジュールについて
8. その他



第2回開催概要

〈日時〉 2026年3月18日（水）

19:00～21:00

〈場所〉 美浜町役場 2階会議室

〈出席委員〉 25名

【主な内容】

1. 前回のふりかえり
2. 勉強会
 - ①「小中一貫教育の展開とその成果および課題」
・質疑応答
 - ②「学校づくりはまちづくり
ーみんなで創る美浜の未来ー」
・質疑応答
3. その他

裏面に主な内容を
まとめています！



★直近のスケジュール

【第3回検討委員会】5/12（火）

- ・先進事例視察
(加東市立 東条学園(兵庫県))

視察の概要は、
次々回の通信にて
お知らせします！



検討委員会の
開催状況は、
こちらから
随時更新して
お知らせします！



『小中一貫教育の展開とその成果および課題』

1. 小中一貫教育の基本的な考え方

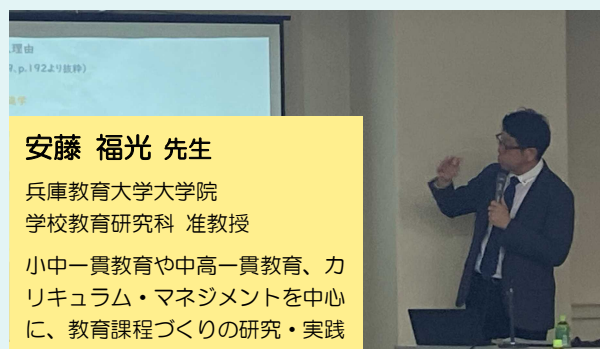
- ・小中一貫教育は全国一律の形ではなく、学力向上や中 1 ギャップの緩和、少子化への対応など、地域課題に応じて導入のねらいが異なります。特に、少子化が進む中では、異学年のつながりの中で社会性を育てる視点も重要になります。
- ・制度の形よりも、地域の実情に応じて 9 年間の学びと育ちをどうつなぐかが重要です。

3. 小中一貫教育の成果と課題

- ・学習意欲や授業理解の向上、中学校進学への不安軽減、異学年交流による思いやりの醸成などが成果として期待されます。加えて、学校生活への満足度の向上や学習習慣の定着、小中の教員連携の深まりなども効果として挙げられます。
- ・一方で、9 年間を通した指導計画づくりや教員の連携時間の確保、負担軽減、施設面の工夫などが課題となります。あわせて、何を 9 年間でつなぐのかを明確にし、小中一貫教育の重点を共有することも重要です。

2. 小中一貫教育の実践事例

- ・合同授業や異学年交流などを通じて、子ども同士の関わりや上級生・下級生それぞれの成長を促す取組が進められています。下級生にとっては上級生が身近な目標となり、上級生にとっては責任感や自覚を育む機会にもなります。
- ・あわせて、教員間の連携や教科担任制などにより、9 年間を見通した教育環境づくりが行われています。また、小学校段階の学びを中学校でどう引き継ぐかを共有し、継続的に見直ししながら実践を重ねることも重視されています。



安藤 福光 先生

兵庫教育大学大学院
学校教育研究科 准教授

小中一貫教育や中高一貫教育、カリキュラム・マネジメントを中心に、教育課程づくりの研究・実践

『学校づくりはまちづくり —みんなで創る美浜の未来—』

1. 学校づくりをまちづくりとして考える

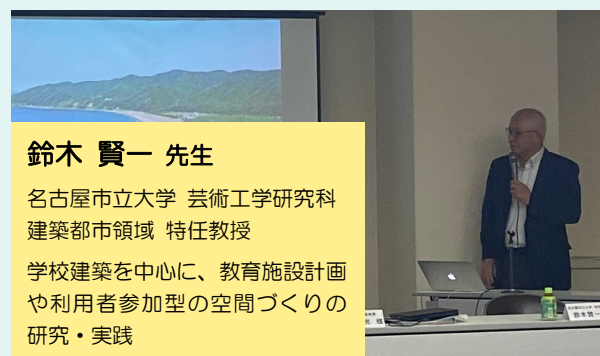
- ・学校づくりは校舎整備にとどまらず、美浜町の将来像や地域資源を踏まえた、地域の拠点づくりとして考える必要があります。海や山、海岸、松林といった美浜町ならではの環境を生かし、長く地域を支える場とすることが重要です。
- ・そのためには、行政だけでなく住民、保護者、教職員、専門家、子どもたちも含めて学校像を共有しながら進めることが重要です。

3. 学校と地域の新しい関係

- ・学校は地域の拠点として、地域との連携や住民が関われる場づくりを通じ、地域全体で子どもを支える仕組みをつくることが重要です。学校の中に地域の人々が自然に関われる場を設け、学校と地域が日常的につながる関係を築くことが大切です。
- ・義務感ではなく主体的な関わりを大切にしながら、美浜町らしい学校像を地域の思いとともに形にしていくことが重要です。多くの選択肢がある中で、美浜町として何を大事にするのかを明確にし、その思いを込めることが大切です。

2. 従来の学校観を見直すこと

- ・これまでの学校の形や学び方を問い直し、多様な学びに対応できる空間や設備、屋外空間の活用など柔軟な環境づくりが求められます。従来の教室配置や学習空間の前提を見直し、子どもが意欲を持って学べる環境を再構築することが重要です。
- ・あわせて、子どもだけでなく教職員にとっても過ごしやすく働きやすい環境を整え、小中一貫の働き方を丁寧に考える必要があります。小学校と中学校の教職員が一緒に働く上での課題も整理し、意見を反映しながら考えていくことが重要です。



鈴木 賢一 先生

名古屋市立大学 芸術工学研究科
建築都市領域 特任教授

学校建築を中心に、教育施設計画や利用者参加型の空間づくりの研究・実践

新しい美浜の学校づくり通信

第1回住民説明会を開催しました！

現在、美浜町では、新しい学校教育のあり方や、小中一貫教育学校の整備に向けて検討を進めています。その取組の一つとして、三尾・和田・松原の3地区および保護者の皆様を対象に、新しい学校教育に関する考え方や今後の進め方について、計5回の説明会を開催しました。

本号では、その概要をお知らせします。

今後も「新しい美浜の学校づくり通信」として、検討の状況を随時お知らせしていきますので、ぜひご覧ください。

★第1回住民説明会の開催概要

①三尾地区

【日 時】令和8年4月4日（土）
10時00分～12時00分
【場 所】旧三尾小学校 2階音楽室

④保護者向け

【日 時】令和8年4月5日（日）
10時00分～12時00分
【場 所】松洋中学校 体育館

②松原地区

【日 時】令和8年4月4日（土）
14時30分～17時00分
【場 所】松原小学校 体育館

⑤和田地区

【日 時】令和8年4月5日（日）
14時30分～16時30分
【場 所】和田小学校 体育館

③保護者向け

【日 時】令和8年4月4日（土）
19時00分～21時00分
【場 所】松洋中学校 体育館

計約50名の方にご参加いただきました！

【主な内容】

1. 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について
2. 小中一教育に関する制度説明について
3. 有識者による講演会（映像）
4. 事例紹介（小中一貫教育・学校施設整備について）
5. 今後の検討スケジュールについて
6. 質疑応答

裏面に主な
質疑応答の内容を
まとめています！



★直近のスケジュール

【第3回検討委員会】5/12（火）
・先進事例視察（加東市立 東条学園小中学校(兵庫県)）

視察の概要は、次回のニュースでお知らせします！



▶ みなさんからいただいたご質問やご意見の一部をご紹介します！



参加者

- ・小中一貫教育を導入すると、これまでの小学校と中学校の教育と比べて、どのような違いや効果があるのですか。
- ・単に校舎が一緒になるだけではないのでしょうか。

- ・小中一貫教育は、単に校舎が一緒になることではなく、子どもの成長を9年間のつながりの中で支えていくことに特徴があります。
- ・異学年の交流が生まれやすくなることや、教職員が連携して、よりきめ細かな支援ができることが期待されています。



美浜町



参加者

- ・学童保育については、子どもたちの安全性や利便性の面からも心配がありますが、今後どのように考えているのですか。

- ・学童保育については、子どもたちの安全性や利便性を考え、新しい学校の近くで確保する必要があると考えています。
- ・具体的な場所は今後の検討となりますが、学校敷地内での整備も含めて検討していく予定です。



美浜町



参加者

- ・新しい学校については、地震や津波への不安もあるため、防災に十分配慮した安心・安全な学校にしてほしいです。
- ・子どもたちの学びの場であると同時に、地域にとっても大切な施設として考えてほしいです。



参加者

- ・新しい学校づくりを進めるにあたっては、主役である子どもたちの意見や考えを大切にしてほしいです。
- ・子どもたちにも分かりやすく説明したうえで、不安や心配ごとも丁寧に聞き取り、今後の学校づくりに活かしてほしいです。



参加者

- ・地域とのつながりを生む場にもしてほしいです。
- ・学校づくりとまちづくりを一体的に考え、地域の人に関わりやすい場にしてほしいです。

★ご質問・ご意見フォーム



その他のご質問・ご意見等ある方は、こちらのQRからご投稿ください！



新しい美浜の学校づくり通信

先進事例視察を実施しました！

現在、美浜町では、新しい学校教育のあり方や、小中一貫教育学校の整備に向けて検討を進めています。その取組の一つとして、先進的な学校づくりや小中一貫教育の取組を学ぶため、先進事例視察を実施しました。

本号では、その概要をお知らせします。

今後も「新しい美浜の学校づくり通信」として、検討の状況を随時お知らせしていきますので、ぜひご覧ください。

★先進事例視察の実施概要

【日 時】令和8年5月12日（火）

10時00分～15時30分

【視 察 先】加東市立 東条学園小中学校（兵庫県）

【参 加 者】検討委員会委員 12名

【主な内容】10:00～11:30 東条学園の見学

13:00～15:30 研修会

（加東市役所 2 階 201 号室）

＜研修会の内容＞

○小中一貫校の施設等

○小中一貫教育の内容等



研修会の様子

裏面に主な
質疑応答等の内容を
まとめています！



★施設紹介（東条学園の見学より）



低学年の教室前に
配置された上履きのまま
遊べるプレイロット



教室横の多目的スペース



廊下端の多目的スペース



小・中学生が集い
多くの目で見守ることが
できる中庭（つながりのにわ）



小中の垣根を越えて
給食を食べながら交流
できるランチルーム・
地域交流スペース

★直近のスケジュール

【第4回検討委員会】6月末頃

- ・事例視察、アンケート結果の共有
- ・目指す子ども像、教育の基本理念、目指す小中一貫教育について

第4回検討
委員会の概要は、
次回の通信にて
お知らせします！



検討委員会の
開催状況は、
こちらから
随時更新して
お知らせします！



視察を通じて、多くの学びを得ました！



★質疑応答の一部をご紹介します！



参加者

・整備方針を示した当初は、学校統合や小中一貫教育に対する反対意見があったのですが、それらの反対意見には、どのように対応したのでしょうか。

・児童生徒数の減少、複式学級の可能性、施設の老朽化、子ども同士の多様な関わりの必要性などを説明し、「子どものためにより良い教育環境を整える」という視点で理解を得てきました。



加東市



参加者

・異動してきた教職員の戸惑いや不安はあるのでしょうか。

・教職員から大きな違和感があるという声はあまり聞いていません。
・他校から異動してきた教職員には最初に研修を行うなど工夫をしています。



加東市



参加者

・小中一貫教育での校則や生活ルールは、どのようなルールとなっていますか。

・中学生には生徒手帳に生活ルールを記載しています。小学生についてもご家庭の冷蔵庫などに生活ルールを貼っていただき、早い段階から保護者と共に生活ルールを意識できるようにしています。



加東市



参加者

・小学校から中学校へ進学する際の不安を軽減するため、どのような取組を行っていますか。

・小学5・6年生の段階から中学校教員の授業を受けたり、上級生と交流したりすることで、中学校が「知らない場所・知らない先生・知らない先輩」ではなくなり、進学時の不安軽減につながっています。



加東市

★加東市のご説明

1. 学校教育（ソフト面）について

- ・東条学園では4-3-2制を基本に、学力向上やリーダーシップの育成を目指しています。小学5・6年生と中学1年生の交流など、学年段階に応じた交流の機会を設けています。
- ・キャリア教育や地域連携にも力を入れており、職業体験、ふるさと学習、見守り活動、田植え体験、花壇づくりなど、地域と学校が一体となった取組を推進しています。また、学校運営協議会やPTCAを通じて、保護者だけでなく地域住民も学校運営に関わる体制を整えています。
- ・中学3年生が沖縄で学んだ内容を6年生に伝え、6年生が広島で学んだ内容を中学3年生に伝える「つなぐ平和学習」や、小中の児童生徒が一緒に給食を食べる「ハッピーランチ」など異学年交流を実施しています。

※PTCA：PTA（保護者と教職員）に地域住民（Community）が加わった、学校・保護者・地域一体型の組織

2. 学校施設整備（ハード面）について

- ・東条学園では、児童生徒が学びやすく、教職員が連携しやすい施設となるよう工夫しています。学年段階に応じた教室配置に加え、地域利用を想定した動線の分離、職員室・保健室・相談室の連携しやすい配置など、学校生活と地域利用の両面を意識した空間づくりを行っています。
- ・限られた敷地を有効に使うため、屋上プールなどの工夫を取り入れています。
- ・災害ハザードエリアに近いため避難場所としての機能も備えています。

★ご質問・ご意見フォーム



ご質問・ご意見は、
こちらのQRコード
からご投稿ください！



発行

美浜町 教育委員会 教育課
TEL：0738-23-4955
Mail：kyoi@town.wakayama-mihama.lg.jp